

鳴子の火山活動解説資料

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

6月16日、鳴子の噴気に関する情報が寄せられました。機上観測により確認したところ、鳴子の片山地獄付近での通常の噴気活動によるものと思われます。噴気活動に特段の変化はありません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。予報警報事項に変更はありません。

○ 概況

本日（6月16日）07時前頃、鳴子で白い煙が出ているとの情報が仙台管区气象台に寄せられました。

本日、陸上自衛隊の協力を得て气象台職員が上空からヘリコプターによる地表面の状態の観測を行いました。今回の観測では、新たな噴気の箇所は見られませんでした。

上空からヘリコプターにより確認したところ（機上観測）、鳴子の片山地獄付近（鬼首地区）での通常の噴気活動による水蒸気の立ち上がりと思われます。今回確認した結果では、通常と比べて特段噴気が多くなっている様子は見られません。

なお、栗駒山の昭和湖、旧火口、ゆげ山の状況にも、特に変化はありませんでした。

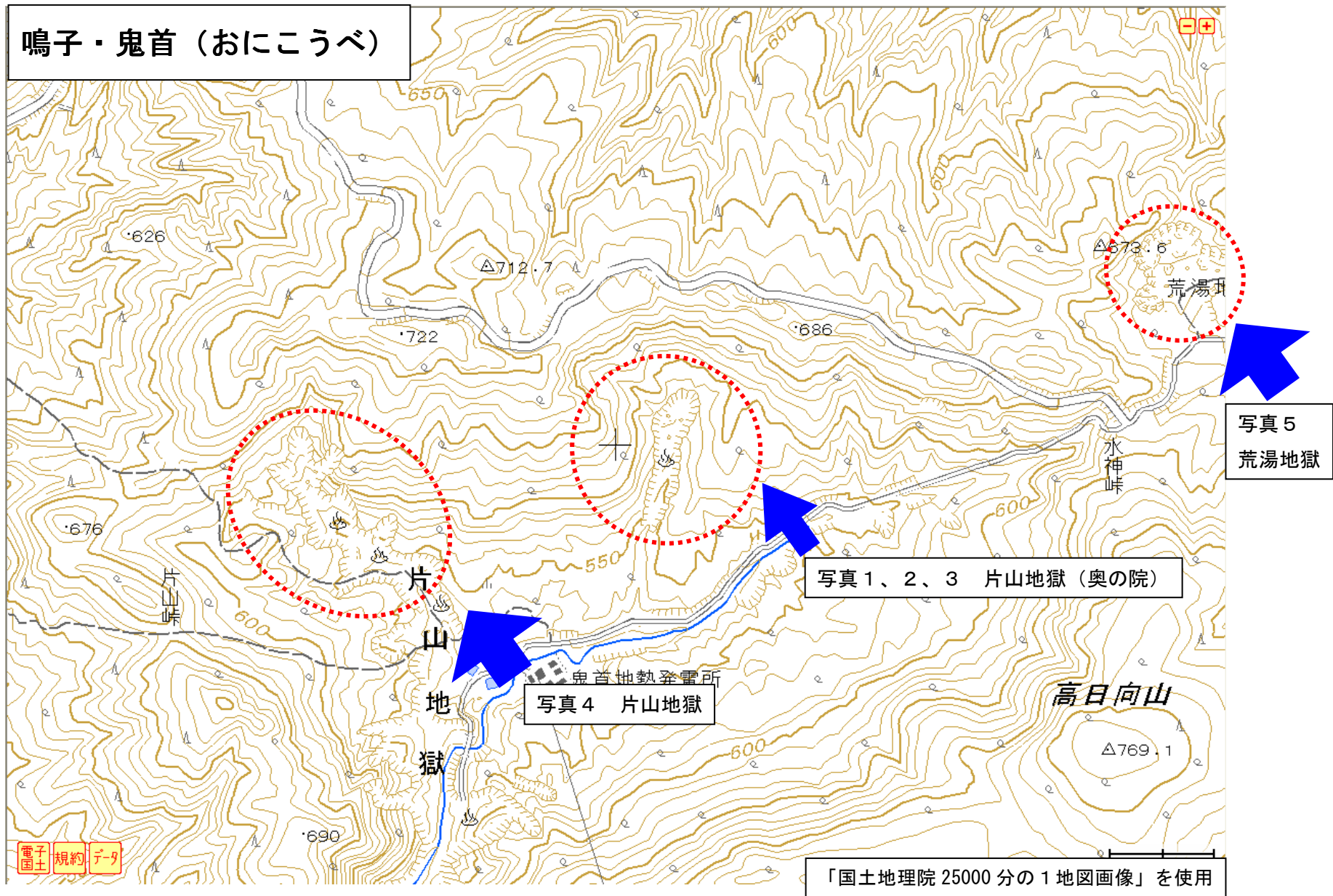
○ 地表面の状態

鳴子の片山地獄付近は以前から存在している噴気地帯で、仙台管区气象台ではこの噴気地帯を含めてこれまでに繰り返して機動観測を行っています。昨年（平成 19 年）12 月 12 日に宮城県の協力で上空からヘリコプターにより行った観測では、噴気が 100～200m 上がっていました。

今回上空から撮影した赤外熱映像装置¹⁾による地表面の温度分布を、写真 1 に示します。前回（平成 19 年 12 月 12 日、写真 2）と比べると、地表面の温度の状態には特段の変化は見られません。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

片山地獄のほか周辺で噴気の見られる荒湯地獄の様子を上空から撮影した写真を、写真 3～5 に示します。



鬼首 片山地獄 (奥の院)

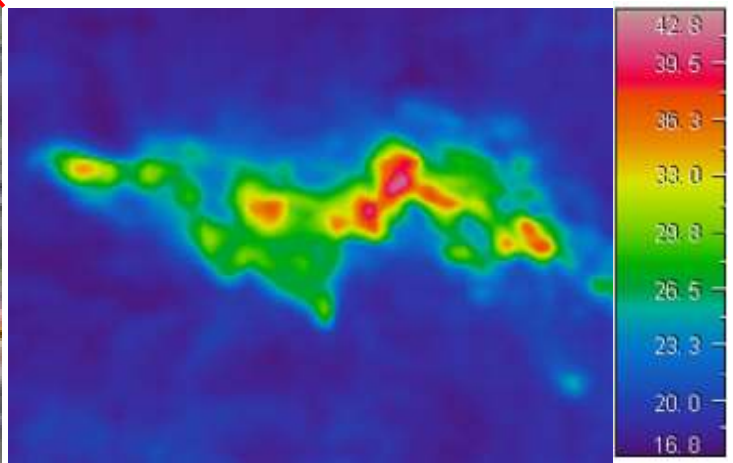


写真1 今回 (2008年6月16日) 上: 可視画像 左: 可視画像拡大 右: 赤外熱映像
(陸上自衛隊東北方面総監部の協力により仙台管区气象台撮影)

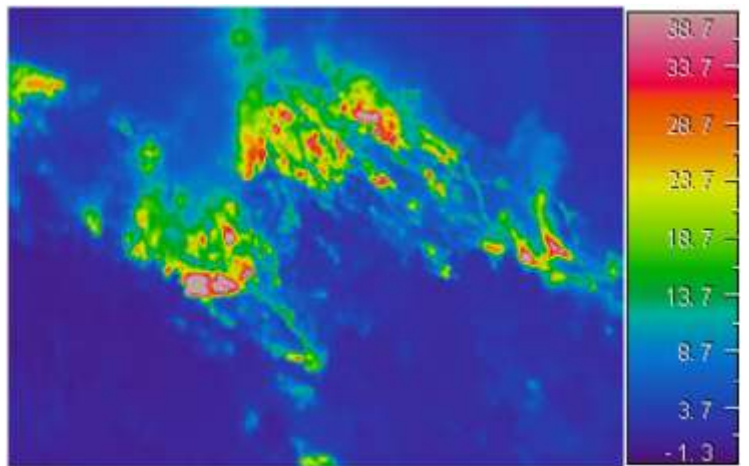


写真2 前回 (2007年12月12日) 左: 可視画像 右: 赤外熱映像
(宮城県の協力により仙台管区气象台撮影)

片山地獄



荒湯地獄



写真 5 荒湯地獄